

平成29年度(2017)

安全報告書



〔 蔵王温泉スキー場：樹氷原コース、ユートピア・百万人・
黒姫・横倉・大森ゲレンデ 〕

普通索道

複線交走式：蔵王ロープウェイ山麓線（通年運転）

複式単線自動循環式：蔵王ロープウェイ山頂線（通年運転）

特殊索道

単線固定循環式：横倉第1A・Bペア・横倉第2ペア・アストリア第1ペア・
アストリア第2ペア・アストリア第3ペア・ユートピア第1
ペア（夏季運転）・ユートピア第2ペアリフト（冬季運転）

単線自動循環式：大森クワトロ・黒姫第1クワトロ・黒姫第2クワトロリフト

蔵王ロープウェイ株式会社

ごあいさつ

日頃は蔵王温泉スキー場をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

当スキー場における索道事業は、弊社のほか3社の事業者によって運営されております。スキーやスノーボードのお客様に対しては、蔵王全山を自由に滑走できるスキー場内の移動手段として、また大自然の造形・神秘的な「樹氷」を観賞するお客様に対しては、樹氷地帯への交通手段として、索道（ロープウェイ・リフト）の安全な運転を提供しております。

またグリーン期（夏季）においても、観光やトレッキング、自然観察のためロープウェイや夏山リフトの営業運転を行っており、「お釜」・「いろは沼・観松平」などへの“足”としてご利用いただいております。

索道事業の経営基盤は勿論、「安全」であります。運転の取扱い、保守整備などにおけるコンプライアンス（法令遵守）を徹底し、お客様の安全確保はもとより、快適にご利用いただけるよう、索道の運転には万全を期しています。

その一環として今期、普通索道はロープウェイ山頂線の4号支柱受索装置オーバーホールや山麓線の誘導滑車ベアリング交換等を行い、特殊索道はアストリア第2ペアリフトの通信ケーブル交換工事等を実施いたしました。

営業面においては、インバウンドの増加傾向と相まって、早い時期からの降雪により樹氷観賞・スキー客ともに出足がよく、恒例の『サマーナイトクルージング』、『バス&ロープウェイ乗車券セット』と雪上車による『樹氷幻想回廊ナイトクルーズ』を開催いたしました。夜間のため運行には細心の注意を払い無事故に努め、好評を博しました。

今後レジャー・スキー産業を取り巻く環境は、景気が回復傾向にあると言われている中、インバウンドについては、引き続き増加が期待できるものの、国内においては少子高齢化によるスキー人口の減少傾向が続いております。

当社では、この情勢を乗り切るため、安全の確保を第一優先として、役職員一同の知恵を結集し増収を図るとともに、さらにエネルギーコストの削減等経費節約に努め、安定した経営基盤の確立を目指す所存でございます。

本報告書は、平成29年度の一年間の安全に対する施策や実態などをまとめたものです。その取組内容については、常に検討と改善を加え、より一層の安全性向上を図ってまいりますので、皆様からのご意見やご要望等を頂戴できますれば幸甚に存じます。



蔵王ロープウェイ株式会社
取締役社長 大木 剛 裕

目 次

- 1 安全基本方針と重点目標
 - (1) 安全基本方針
 - (2) 重点目標

- 2 事故等の発生状況（平成 29 年度）
 - (1) 索道運転事故（索道人身障害事故）
 - (2) 災害（地震や暴風雨、豪雪等）
 - (3) インシデント（事故の兆候）

- 3 輸送の安全確保のための取組み
 - (1) 人材教育
 - (2) 応急下降訓練
 - (3) 安全確保のための諸施策
 - (4) 安全に係る内部監査の実施

- 4 当社の安全管理体制

- 5 利用者の皆様へ
 - (1) 「ニコニコキャンペーン」の展開
 - (2) ロープウェイ乗車の整理券発行について

- 6 お問い合わせ先

1 安全基本方針と重点目標

(1) 安全基本方針（当社「安全管理規程」第2条）

当社の経営理念の第一は、安全を最優先とし、社会やお客様から「信頼される蔵王ロープウェイ」の構築であります。社長、役員および職員（職員に準ずる者を含む）は、次の安全基本方針に則り、輸送の安全確保を図っております。

- ① 一致協力して輸送の安全確保に努めます。
- ② 輸送の安全に関する法令および関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
- ③ 常に輸送の安全に関する状況を把握するよう努めます。
- ④ 職務の実施にあたり、臆測せず確認の励行に努め、疑義のあるときは上司の判断を仰ぎ、適切に処理します。
- ⑤ 事故・災害等の発生時は、旅客の安全を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとります。
- ⑥ 情報は漏れなく正確、迅速に伝え、透明性を確保します。
- ⑦ 輸送の安全に関する技術、知識等は進んで取り入れ、研鑽に努めます。

(2) 重点目標

2017～2018 スノーシーズンにおける重点目標は次のとおりでありましたが、グリーン期においても引き続き目標達成に向け周知・徹底を図り、輸送の安全確保を図ります。

① 安全

「臆測やめよ 確認せよ」

「止めてから おこせ」

② 組織で進める

安全管理

- ☆ 基本動作の励行
報告・連絡・相談の徹底
- ☆ 情報の共有
ヒヤリハット情報の収集・分析・活用
- ☆ 『お客様』『輸送』『自分自身』の安全
「絶対安全」は、ありません！

2 事故等の発生状況（平成29年度）

(1) 索道運転事故（索道人身障害事故）

平成29年度における索道運転事故はありませんでした。引き続き運転事故防止に努めます。

(2) 災害（地震や暴風雨、豪雪等）

平成 29 年度における災害による運転停止はありませんでした。

なお強風や雷時は、安全確保のため運行の一時休止を行っております。

索道名	日数	延べ時間
蔵王ロープウェイ山麓線	14 日	80 時間 12 分
蔵王ロープウェイ山頂線	23 日	128 時間 55 分
横倉第 1AB ペアリフト	7 日	40 時間 50 分
横倉第 2 ペアリフト	8 日	54 時間 30 分
アストリア第 1 ペアリフト	3 日	20 時間 15 分
アストリア第 2 ペアリフト	7 日	28 時間 40 分
アストリア第 3 ペアリフト	9 日	37 時間 00 分
ユートピア第 1 ペアリフト	17 日	82 時間 00 分
ユートピア第 2 ペアリフト	8 日	40 時間 15 分
大森クワトロリフト	5 日	28 時間 15 分
黒姫第 1 クワトロリフト	8 日	47 時間 45 分
黒姫第 2 クワトロリフト	営業休止	

(3) インシデント（事故の兆候）

平成 29 年度における国土交通省へのインシデント報告はありませんでした。

3 輸送の安全確保のための取組み

(1) 人材教育

当社では、輸送の安全確保のため、安全に関する社内の教育や東北索道協会主催等社外の研修にも積極的に参加して索道技術の向上や知識の習得に努めています。

平成 29 年度に実施または受講した主な教育等は次のとおりです。

研修・講習会名	主催	実施月日	人員(名)
新入社員雇入時安全衛生教育講習会	山形労働基準協会	4/7・25	6
安全衛生推進者養成講習会	山形労働基準協会	4/21	1
索道技術研修会	東北索道協会山形地区部会	7/11・12	2
安全の日講演会	東武鉄道(株)	8/1	2
索道技術管理員等講習会	東北索道協会	9/4・5	2
ピステンブーリーテクニカルセミナー	スノーシステムズ(株)	9/7・8	1
安全衛生管理研修会	山形労働基準協会	9/15	1
索道技術管理者研修会	東北運輸局	9/14・15	2

異常時総合訓練	東武鉄道(株)	10/10	1
安全管理者能力向上教育	山形労働基準協会	10/12	1
コンプライアンス研修会	社内(講師:フィデア総研)	11/6・9	70
東武グループ交通事業者安全推進連絡会	東武鉄道(株)	11/14	2
雪上車運転及びスキーパトロール(救急法)講習	東北索道協会山形地区部会	12/5・6	2
冬期社員教育	社内	12/16・19	25

(2) 応急下降訓練

毎年、スノーシーズン（普通索道においてはグリーンシーズンを含む）営業開始前に職員一同にて応急下降訓練（緊急時の救助訓練）等を実施しております。

平成 29 年度に実施した応急下降訓練等は次のとおりです。

実施個所・訓練内容	実施月日	人員(名)
ロープウェイ山麓線 応急下降訓練	6/2	19
ロープウェイ山麓線 予備原動機取扱い訓練		5
ロープウェイ山頂線 応急下降訓練		26
ロープウェイ山頂線 予備原動機取扱い訓練		29
ロープウェイ山麓線 応急下降訓練	9/7	20
ロープウェイ山麓線 予備原動機取扱い訓練		4
ロープウェイ山頂線 応急下降訓練		26
ロープウェイ山頂線 予備原動機取扱い訓練		31
ロープウェイ山麓線 応急下降訓練	12/16・17	7
ロープウェイ山麓線 予備原動機取扱い訓練		5
ロープウェイ山頂線 応急下降訓練		10
ロープウェイ山頂線 予備原動機取扱い訓練		10
ペアリフト応急下降訓練	12/16	21
クワトロリフト応急下降・予備原動機取扱い訓練		10

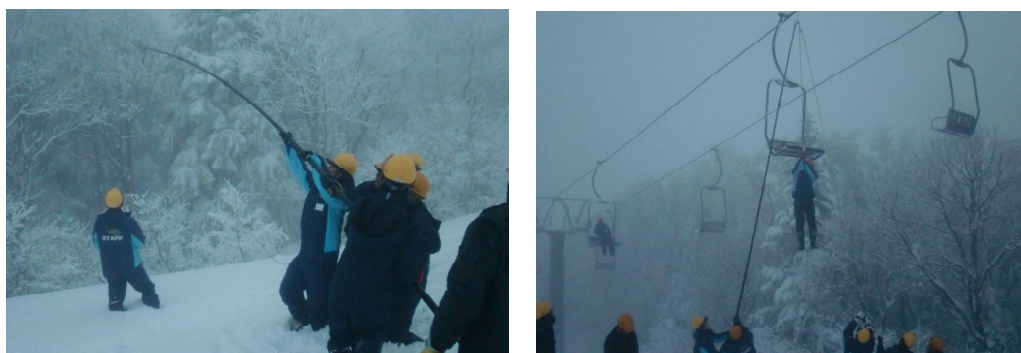
ロープウェイ山麓線 応急下降・予備原動機取扱い訓練



ロープウェイ山頂線 応急下降・予備原動機取扱い訓練



ペアリフト応急下降訓練



クワトロリフト応急下降・予備原動機取扱い訓練



(3) 安全確保のための諸施策

当社では、安全の維持・向上のため整備や工事等を実施しております。

平成 29 年度に実施した主な整備・工事等は次のとおりです。

索道名	整備・工事件名	竣工
ロープウェイ山麓線	誘導滑車(12箇所)ベアリング交換	5月
ロープウェイ山頂線	4号支柱受索装置オーバーホール	9月
アストリア第2ペアリフト	通信ケーブル交換工事	11月
黒姫第1クワトロリフト	シーケンサ更新工事	11月
アストリア第3ペアリフト	減速機オーバーホール	11月

(4) 安全に係る内部監査の実施

当社では、安全マネジメント態勢が適切に確立・実施・維持され機能していることを確認するため内部監査を実施し、課題等に関しては速やかに是正・改善処置を行っております。

平成 29 年度に実施した内部監査は次のとおりです。

現業部門施設、貯蔵物品検査・経営管理部門書類検査（普通、特殊索道・本社事務所）H30.3/6 実施

内部監査 (H30.3/6)



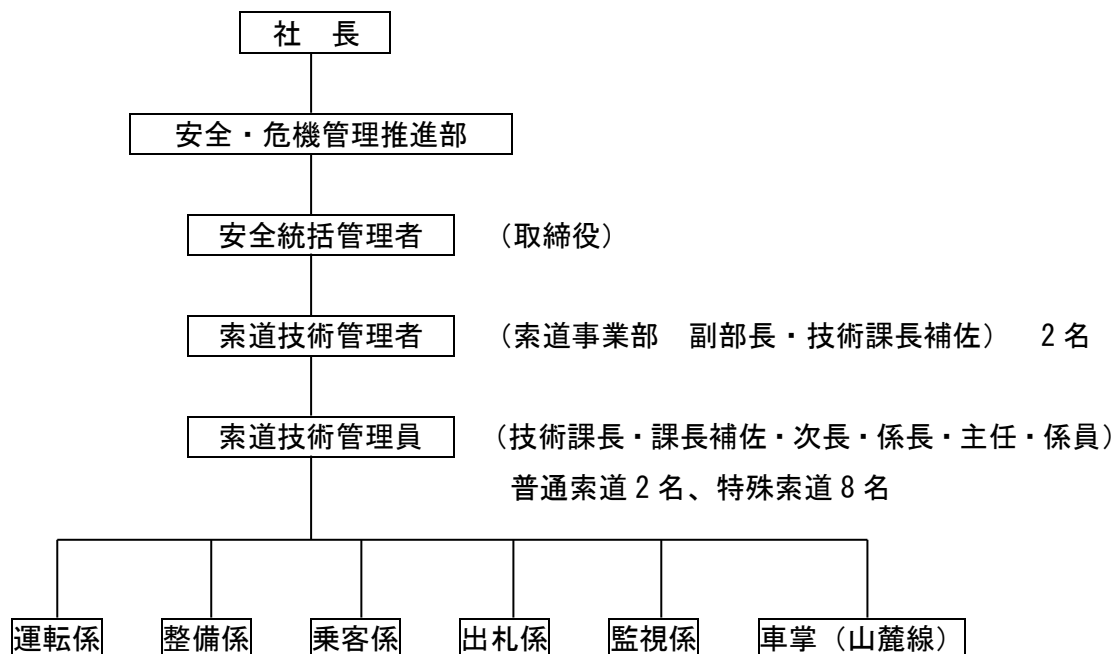
平成 30 年度 内部監査実施予定
現業部門施設検査

3 月 実施予定

4 当社の安全管理体制（当社「安全管理規程」第3条、第4条）

当社は、索道事業における安全確保のため社長を最終的な責任者とし、安全・危機管理推進部を統括部署として、安全統括管理者、索道技術管理者および索道技術管理員の有資格者を配置して役割と責任および権限を明確にした管理体制を確立しております。

有資格者の役割・責任・権限は次のとおりです。



社 長	輸送の安全確保に関する最終的な責任を負う。
安全・危機管理推進部	輸送の安全確保に関する業務・コンプライアンス等を統括管理する。
安全統括管理者	索道事業の輸送の安全確保に関する業務を統括管理する。
索道技術管理者	安全統括管理者の指揮の下、索道の運行管理、索道施設の保守管理その他技術上の事項に関する業務を統括する。
索道技術管理員	索道技術管理者の指揮の下、索道の運行管理、索道施設の保守管理その他技術上の事項に関する業務を管理する。

5 利用者の皆様へ

(1) 「ニコニコキャンペーン」の展開

当社は、ご利用のお客様の安全を最優先に、そしてご満足していただけるようスキーシーズンのみならず年間を通してこのキャンペーン“もてなしの心での一声運動”を展開しております。お気付きの点がございましたら、何なりとお申し付けください。

① 明るい心で	『いらっしゃいませ』
② 素直な心で	『はい』
③ 積極的な姿勢で	『どうぞ』
④ 反省の態度で	『申し訳ございません』
⑤ 謙虚な心で	『お待たせいたしました』
⑥ 感謝の心で	『ありがとうございました』
⑦ お客様の状態で	『どうなさいましたか』

(2) ロープウェイ乗車の整理券発行について

冬季における多客時にロープウェイご利用のお客様に対し、乗車整理券を発行して混雑時の乗車制限をさせていただきました。

これは、乗車定員の厳守による安全確保のためであるとともに、お待ちいただくお客様に時間の有効活用をしていただくためでもあります。

上記趣旨をご理解いただき、今後とも混雑時の乗車整理券発行によるご乗車に対し、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

6 お問い合わせ先

安全報告書へのご感想、当社の安全に対する取組み等へのご意見・ご要望その他お気付きの点がありましたら、下記にご連絡ください。

平成 30 年 6 月 29 日

〒990-2301 山形市蔵王温泉 2 2 9

蔵王ロープウェイ株式会社

総務部 TEL 023-693-0789

FAX 023-693-0790

蔵王山麓駅 TEL 023-694-9518

FAX 023-694-9143